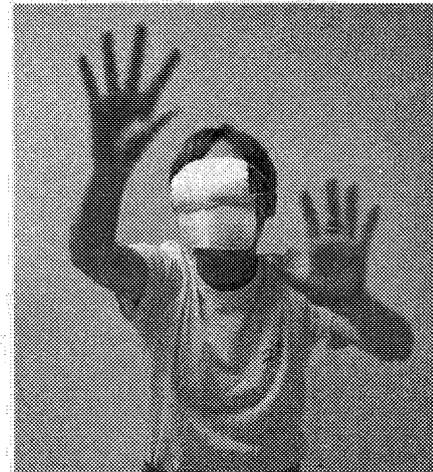
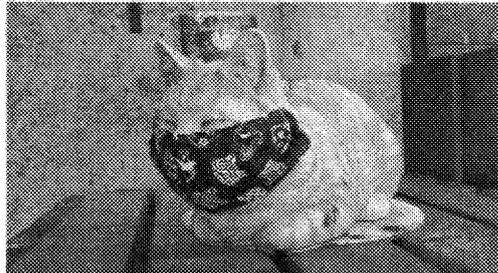


コロナ禍、震災…苦難を 乗り越切る映画の知恵

東日本大震災とコロナ禍の二大国難に焦点を当てたドキュメンタリー映画の鑑賞を通じ、今後、様々な災害に向き合う貴重なヒントを学ぶ



2024年1月13日（土）14日（日）
両日とも午後1時～4時

【会場】山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）3階
山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室

山形市平久保100番地

▽1月13日 映画①「平成から令和への道すがら、私が見たものは…」(59分)②「山形でカミュと一緒にアマビエに祈る」(30分)③「札幌、コロナ禍、オリンピック」(14分)上映。トークゲストは、山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学学長の阿部宏慈氏、山形市の恵塾（よしの）画廊コーディネーター兼キュレーターの間裕美氏。

▽1月14日 映画④「東北の力 文化の力」(99分)上映。トークゲストは、米沢市 避難者支援センターにおいて事務長の上野寛氏、岩手県陸前高田市的一般社団法人トナリ/防災伝承チームの久保玲奈氏。

※4作品全て監督は山形市在住の岡崎孝氏。※両日ともに上映後、ゲストと監督によるトークを行う。

※2日間連続の参加が望ましいが、どちらか1日だけの参加も可能。

入場無料

【主催】映画で男女共同参画を考える会

【申し込み・問い合わせ】岡崎 090 (6255) 0921

【上映作品解説】

① 様々な「平成最後の」「令和最初の」をキーワードに貴重な映像を撮影し、元号が変わっても震災などの重要な出来事を歴史の奥に押し込めず、後世にどう伝えていくかを考える。「第29回Creative Café山形の映像作家特集～ドキュメンタリー編」(2020年)で初公開。

② コロナ禍では県境を跨ぐことに自粛を求められる異常な日々が続いた。そうした中、あえて山形県内に撮影を限定。文学や美術が災害発生時に果たす役割を考える。山形市男女共同参画センター・ファーラ市民企画講座「コロナ禍を生き抜く映画の力」(2021年)で初上映。

③ ほぼ無観客開催となった2020東京オリンピック・パラリンピックとは何だったのか？マラソンや競歩の会場となった札幌に赴き、公式記録映画とは異なる一観客の目線で、競技や街の様子にカメラを向けた。「コロナカプセルwithオイド短編映画祭」(2023年)で初上映。

④ 東北各地で震災とコロナ禍の二重苦に向き合う人々の姿をとらえる。縄文以来の東北の歴史、独自の文化に災害を乗り越えるヒントがあるはず。そんな願いも込めた。2023年、「令和4年度東日本大震災復興祈念事業(米沢会場)」と「陸前高田防災減災フィールド」などで公開。